

今日はみなさんの「ハレの日」卒業式です。百四十九回目の卒業式。もう少しで二万人になろうかという姫島小学校の卒業生。歴史と伝統を感じます。今日からみなさんもその一員です。

本当は卒業証書一枚一枚を美しい文字で手書きできれば素敵なのですが、それはできないので、おめでとうという気持ちを込めて一枚一枚に印を押しました。そうして準備した卒業証書を、みなさん一人一人の顔をみて手渡しました。さまざまな思いがこみあげてきて、胸が熱くなりました。

日ごとに暖かさを増して桜の花が咲き誇る季節はもうすぐです。また、三年間さまざまな我慢を強いられた新型コロナの扱いが変わり、新年度は、今年度よりもさらに、本来の伸び伸びとした学校生活を取り戻せそうです。さまざまな意味で、新しいスタートの季節である「春」の訪れを感じます。「春」の訪れとともに卒業生のみなさんのこれから思いを馳せられることができてよかったです。

みなさんの小学校生活は入学式から始まりました。小さくて可愛らしく、頼りなげで守ってあげたい子どもたち。きっとそれがみなさんの当時の姿であったことと思います。そこから六年後の今日のみなさんの姿。いつの間にこんなに大きくなったのでしょうか。背丈は伸び、表情は少し大人びて、たくさんので

きなかったことができるようになり、たくさんのわからなかったことがわかるようになりました。支えられ守られるばかりだったのに、いつの間にか人を支え守ることができるようになろうとしています。成長するということは、とても素敵なことだと思います。

その六年間の成長に心の中で大きな拍手を送るとともに、あらためて卒業生のみなさんに伝えたいと思います。卒業おめでとう。みなさんのこれからが眩しいです。たくさんの希望がみなさんを待ち受け、たくさんの幸福をみなさんが手にしていきますように。

さて、卒業にあたりみなさんに、中学校生活であるいはこれからの人生で忘れずにいてほしい「二つの気持ち」について話をしたいと思います。この「二つの気持ち」の話は、実は、一年前の卒業式でした話と同じです。姫島小学校を巣立っていくみなさんに、いちばん伝えたいことは何だろうと考えた末に、やはり今年も、難しい言葉ではなく、誰もがよく知っている言葉だけれど奥深い「二つの気持ち」について、話をさせてもらうことにしました。

忘れずにいてほしい一つめの気持ち。それは「愛」です。「愛」って、どういう気持ちだと思いますか。

「愛」というのは、簡単に言うと「大切に思う気持ち」です。自分に関わる人やものごと、例えば、家族や友達、チームや学校などを、大切に思い大事にする。それが「愛」です。「優しさ」と言い換えることもできます。そんな気持ちをいつもたくさんもっている人は、きっと、そのお返しとして、自分に関わる人やものごとから大切に思われ大事にされます。身のまわりに温かな結びつきがあふれて幸せになると思います。

忘れずにいてほしい二つめの気持ち。それは「感謝」です。「感謝」って、どういう気持ちだと思いますか。

「感謝」というのは、「自分一人で生きているわけではないとわかること」だと思います。たくさんの人やものごとに支えられ、人は生きていくことができる。たくさんの人やものごとに支えられ、人は成長することもできる。そのようにわかることだと思います。そして、自分を支えてくれる人やものごとに、心から「ありがとう」と言える。そんな気持ちが「感謝」です。卒業生のみなさんには、いつも「感謝」を忘れない人になってほしいです。そういう人は、きっと、誰かをしっかりと支える人でもあるはずです。

「愛」と「感謝」を忘れない人。とても素敵な人だと思います。中学生になっても、将来、大人になっても、ぜひ、みなさん

にはそういう人であってほしいです。

日本でも世界でも、暗い気持ちになるたいへんなできごとが毎日のようにおきている世の中です。「愛」と「感謝」を忘れない人。そんな人が日本でも世界でもあふれるようになれば、きっと、明るい気持ちになれるできごともあるでしょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様の大きく成長された姿をご覧になり、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにされているのではないのでしょうか。心よりお祝い申し上げます。あわせて、これまで六年間の学校に対する温かいご理解とご協力に、厚くお礼を申しあげます。中学生となるお子様に戸惑いを感じる時もあるかもしれませんが、ぜひ、変わらぬ愛情とつかず離れずほどよい距離感で、さらなるお子様の成長を見守ってください。

それでは、みなさまの幸福を願って、卒業式の式辞とさせていただきます。

令和五年三月十七日

大阪市立姫島小学校 校長 吉田健太